



分布している。深海域と異なり複雑な地質構成から成っているところも多く、音波探査記録の解析等に非常に苦労している。

- 本図の大きな成果の一つに陸域にはみられない西南日本島弧内帯域の新第三紀の活動を明らかにしたことであろう。陸域が古期岩類・新期火山岩類から成り、沿岸域にごくわずかに新第三系の分布がみられる程度であるのに対して、海域には新第三系・第四系が厚く発達している。
- 男女海盆域の新第三系には北東—南西方向の断層をともなった短波長の褶曲構造がみられる。一方、東海陸棚の新第三系は男女海盆にくらべると長波長の褶曲構造となっている。
- 対馬およびその南域には対馬の伸長方向と同様の断層・褶曲構造がみられる。対馬の古第三系は対馬海峡南域に広く分布している様子がみられ、九州北岸の古第三系に連続しているものと推計される。一方、対馬海峡北域では対馬西岸沖に沿った断層で切られ、その西域には古期岩類の上に新第三系以降の堆積層が分布し、少なくとも海底1秒位（約1000m）の深さには古第三系はみられない。
- 山陰沖の大陸棚・大陸斜面には厚い新第三系が分布し、東北東—西南西ないし西方向の断層・褶曲構造が発達している。本図には測線間に追跡できる構造を中心として表現してあるが、その他に多くの褶曲構造等が同様の方向に存在する。
- 対馬海盆域にはところどころ古期岩類が海底下浅所に高まりとなって分布し、落差の大きい断層運動により古期岩類が地塊状に分布している可能性が高い。その上に新第三系・第四系が比較的レベルに近く分布している。大陸斜面上部には、ところにより第四系が地すべり構造をともっている。本図には明瞭な地すべり構造の存在するところが表現されている。
- 西南日本弧内帯域を形成するこれらの新第三系・第四系は、総じて島弧活動の応力場を強く反映した造構運動の場であり、それらが周囲をとりまく地質条件によってどの様に変化していくかといった過程が明瞭に表現されているところであると判断される。

100万分の1 海底地質図の新刊

日本海南部及び 対馬海峡周辺 広域海底地質図

海洋地質図 13

著者 本座栄一・玉木賢策・湯浅真人・村上文敏
(海洋地質部)

発行 工業技術院 地質調査所

取扱先 地学文献センター (0423) 62—5050

- 本図は 1977年4月19日～5月28日にかけての40日間の白嶺丸による調査結果をとりまとめたものである。本図幅域は九州南端西域の男女海盆、東海陸棚の一部から対馬海峡、島根半島沖までの山陰沖大陸棚西域、対馬海盆等の海域を含む。
- 本域は東海陸棚、対馬海峡、山陰沖といった日本周辺でも大陸棚の発達が良好なところが中心であり、浅海域が広く

地質ニュース	第306号	2月号
	定価 ¥ 500	千実費
昭和55年2月1日	発行	
編集	工業技術院	地質調査所
発行人	林	久雄
発行所	株式会社	実業公報社
	東京都千代田区九段南4の2の12	
	Tel. (03) 265-0951 (代表)	
	振替口座	東京 32466
総発売元	大蔵省印刷局	政府刊行物仕入部
	東京都港区赤坂葵町2	
	Tel. (03) 582-4866	
印刷所	共同印刷株式会社	